

### 3 大粒系ブドウのジベレリン1回処理の可能性

#### ねらいと成果

「ピオーネ」や「安芸クイーン」などの大粒系ブドウは、消費者ニーズや結実の安定性から、本県ではジベレリン（以下GAとする）による無核（種なし）栽培が行われている。一般にGAは2回処理し、1回目は満開期に無核化と着粒確保のため、2回目は満開10日～15日後に果粒肥大を目的に行われる。また、GAの他に、着粒安定や果粒肥大促進を目的としてホルクロールフェニユロン（商品名：フルメット、以下Fとする）液剤もGAの補助剤として利用されている。しかし、GA処理前後の時期は、整房、摘粒などの果房管理が短期間に集中し、規模拡大の制限要因ともなっている。そこで、大粒系ブドウ数品種を用いて、GA1回処理が果実品質に及ぼす影響について検討した。

GA1回処理は、品種により若干反応が異なるが、慣行の2回処理に比べて果粒肥大がやや劣る反面、着色が向上する傾向が認められ、着色がきわめて困難で、黒色系品種ほど大粒が求められない赤色系品種において、高品質で省力的な技術として利用できる可能性が認められた。

#### 内容

大粒系ブドウ6品種（黒色系：紫玉、藤稔、赤色系：安芸クイーン、紅伊豆、シナノスマイル、白色系：ハニービーナス）について、GA1回処理はGA25ppmにF5ppmを加用した処理液を、満開期に花房浸漬処理した。慣行区は満開期（GA12.5ppm＋F2.5ppm）、満開10～15日後（GA25ppm）の2回処理した。処理は同一樹の主枝単位で行い、それぞれの収穫期に平均的な10果房を採取して果実調査した。

GA1回処理は慣行区と比べて、無核化には大きな差異はなく、果粒重がやや劣ったが、藤稔を除き着色、糖度が向上する傾向が認められた。黒色系品種の紫玉では着色が向上するものの、果粒重が10g程度と小さく、藤稔でも着色に差がなく果粒重が小さいため、やや見劣りがした。白色系で着色を必要としないハニービーナスも、果粒肥大不足であった。赤色系の3品種は慣行栽培では極めて着色しにくいですが、GA1回処理で果粒肥大がやや劣るものの、明らかに着色、糖度が向上し、省力的な高品質果生産技術となる可能性が認められた。

#### 今後の方針

現在、各品種とも、GA、Fのこのような使用方法での登録はないが、将来的には登録拡大の可能性があり、使用濃度、時期等についてさらに検討を行う。

福井 謙一郎（農業技セ・園芸部）

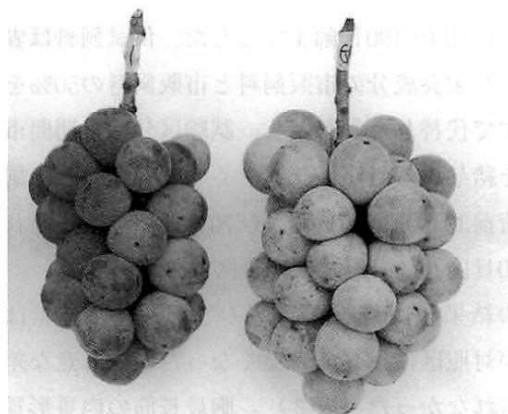


写真 安芸クイーン（左：GA1回処理、右：慣行）

表 ジベレリン1回処理が大粒系ブドウの果実品質に及ぼす影響

品 種 名	試 験 区	果房重 (g)	果粒重 (g)	果皮色 <sup>1)</sup>	糖 度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	含核数 (種子数/粒)
紫 玉	GA1回	481	10.1	8.5	19.1	0.57	0.0
	慣 行	487	11.2	7.4	19.0	0.56	0.0
藤 稔	GA1回	479	17.0	8.9	18.2	0.50	0.2
	慣 行	540	18.2	8.8	19.1	0.48	0.2
安芸クイーン	GA1回	371	11.6	3.8	19.8	0.54	0.1
	慣 行	401	13.3	2.4	18.8	0.54	0.0
紅 伊 豆	GA1回	517	12.2	4.6	18.8	0.49	0.3
	慣 行	498	13.3	3.1	17.9	0.47	0.3
シナノスマイル	GA1回	398	10.0	3.8	19.0	0.52	0.0
	慣 行	512	13.8	2.0	17.3	0.50	0.1
ハニービーナス	GA1回	349	8.6	—	21.1	0.63	0.4
	慣 行	445	11.0	—	19.7	0.64	0.9

1) カラーチャート数値